

# 宮城山岳通信第10号

## 目次

巻頭言	富塚和衛 . . . . . 1 頁
定例役員会報告	事務局 . . . . . 2～3 頁
宮城支部山行報告	
☆夏山遠征山行（北アルプス、焼岳登山）（共益事業山行）	富塚和衛 . . . . . 3～4 頁
☆第4回親子登山教室（戸神山登山）（公益事業山行）	遠藤銀朗 . . . . . 4 頁
☆山の日記念山行（山形支部との合同山行）（公益事業山行）	佐藤昭次郎 . . . . . 5～6 頁
☆沢登り山行（禿岳山域「火ノ沢」遡行）（共益事業山行）	佐藤昭次郎 . . . . . 6 頁
☆初秋山行（仙台神室岳登山）（共益事業山行）	富塚和衛 . . . . . 6～7 頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
☆宮城支部納涼ビアパーティー	木皿 謙 . . . . . 7 頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
☆日本山岳会自然保護全国集会	柴崎 徹 . . . . . 8 頁
平成29年10月～平成30年1月の行事予定	事務局 . . . . . 8 頁
編集後記	遠藤銀朗 . . . . . 8 頁

## 巻頭言（山登り雑感）

支部長 富塚和衛

最近、「健康登山」・「卓越登山」なる言葉を耳にする。文字通り「健康登山」は、健康を維持し、自分の人生を充実させようとする山歩き。どちらかと言えば中高年層の登山と言える。一方、「卓越登山」は、エベレスト等の難しい山登りに挑むような登山で、経験と知識が豊富で優れた技術を持つ熟練者の山岳登山。年齢層は青壮年。勿論、この2つの登山形態は完全に区分されている訳ではない。若い時代から「健康登山」を志向する人もおれば、若い時代は「卓越登山」に心を砕くも、年を重ねるとともに「健康登山」に軸足を置くようになる人もいるだろう。

ここで、登山における遭難事故者の推移を見てみよう。興味深いデータがある。1960～1970年代は団塊世代が学生生活を謳歌していた時代。大学山岳部が活況を呈していた。この時代の遭難者は20歳代が66%を占めていた。45年後の昨今はどうか。60歳代、70歳代で約45%を占めるようになった。これは何を意味するのか。「卓越登山」を目指す若者が減って、「健康登山」を志向する高齢層に事故者がシフトしてきていることを物語っているのでは。「卓越」と「健康」に優劣はないと思うし、登山は人生に充実感と潤いを与えてくれるのは間違いない。ただ、昨今はお金さえ出せば気軽に好きな山に登れる時代。登山の原点は自分で計画を立てる処に原点があるのではと思うのだが。登山客は避け、登山者でありたいものだ。いずれにしても、事故のない山登りを目指したい。

## 定例役員会議事録

### ★平成 29 年 7 月定例役員会議事録

日 時：7 月 12 日(水)18:30~20:30  
場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室  
出席者：富塚（和）支部長、遠藤副支部長、佐藤、草野、三宅、千葉、高橋（二）、松田、鈴木、木皿、鳥田

計 11 名

#### 《報告事項》

- (1) 総務・財務委員会からの報告
  - ① 山岳関係機関等からの情報受理状況について
- (2) 山行集会委員会からの報告
  - ① 山の日記念交流事業の準備進捗状況について
  - ② 第 4 回親子登山教室の準備について
- (3) 自然保護・科学委員会からの報告
  - ① 平成 29 年度自然保護全国集会参加募集について
- (4) 支部創立 60 周年記念事業特別委員会からの報告
  - ① 支部創立 60 周年記念事業特別委員会委員の決定について
- (5) 諸事業担当役員からの報告
  - ① 支部ビアパーティー開催について

#### 《審議事項》

- (1) 支部創立 60 周年記念事業の海外登山対象山域について  
平成 30 年度に実施する支部創立 60 周年記念山行は、支部創立 60 周年記念事業特別委員会の審議結果により提案されたとおり、国外登山対象山域を台湾の玉山とすることを承認した。
- (2) 平成 29 年度世界谷地湿原保全事業参加依頼（宮城県）について  
宮城県生活環境部から文書により依頼があった世界谷地湿原保全事業については、世界谷地湿原の保全に

負の影響がないことを宮城県が確認できたとする結果の報告を受けたいと、支部として参加するかどうかを検討することにした。

#### 《その他》

- (1) 各種委員会名簿について
- (2) 新会員（準会員）本部承認の件
- (3) 平成 29 年度本部通常総会の概要報告について

(事務局報告)

### ★平成 29 年 9 月定例役員会議事録

日 時：9 月 12 日(火)18:30~20:30  
場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室  
出席者：富塚（和）支部長、遠藤副支部長、佐藤、草野、三宅、柴崎、高橋（二）鈴木、鳥田、富塚（真）

計 10 名

#### 《報告事項》

- (1) 総務・財務委員会からの報告
  - ① 平成 29 年度支部運営交付金の件
  - ② 世界谷地湿原保全事業参加依頼に対する回答について
  - ③ 山岳関係機関からの情報受理状況
- (2) 山行集会委員会からの報告
  - ① 山の日記念交流事業の実施結果について
  - ② 第 4 回親子登山教室の実施結果について
  - ③ 夏山遠征山行の実施結果について
  - ④ 初秋山行の実施結果について
  - ⑤ 第 5 回親子登山教実施計画の件
- (3) 会報編集出版委員会からの報告
  - ① 宮城通信第 10 号の発行について
- (4) 自然保護・科学委員会からの報告
  - ① 平成 29 年度自然保護全国集会参加結果について
- (5) 諸事業担当役員からの報告
  - ① ビアパーティーの開催結果について

《審議事項》

- (1) 古稀記念着衣贈呈計画について  
本年2月の定例役員会において承認された会員の古希祝記念品贈呈の復活に関し、事務局提案の計画とおりに実施することを了承した。
- (2) 登山道の整備支援について  
今後具体的な整備内容を精査し、

支部としての支援の可否を決定することにした。

《その他》

- (1) 新支部友会会員の加入について
- (2) 第33回全国支部懇談会参加者について
- (3) 今後の定例役員会開催日について  
(事務局報告)

## 宮城支部山行報告

### ☆夏山遠征登山（北アルプス焼岳）（共益事業山行）

- ・実施日：7月22日（土）～24日（月）
- ・山域：上高地焼山（2,444m）
- ・コース：上高地・山研→焼岳登山口→焼岳小屋→焼岳北峰→下堀沢出合→（新中の湯ルート）→中の湯→中の湯バス停→上高地バスターミナル→上高地・山研
- ・参加者：（会員）草野洋一、鳥田笑美、遠藤銀朗、太田正、川名久子、冨塚眞味子、冨塚和衛（準会員）新井田祐治（支部友）蔭山美緒子、針生紀子、赤間敏子、津久井宏（一般）鳥田伊志  
(計13名)
- ・報告者：冨塚和衛

夏山遠征登山は、これまで3泊4日の日程で実施して来た。1回目が北アルプス白馬三山縦走。2回目が南アルプス甲斐駒ヶ岳&仙丈ヶ岳。3回目の今年は、日程を1泊減らし、北アルプスは上高地の衛兵のあだ名が付く焼岳（北峰：2,444m）だ。

★7月22日（土）

6:00 仙台駅東口駐車場に集合。3台の乗用車に分乗し上高地へと向かう。途中のSAで朝食、昼食を摂り、上高地を往復するシャトルバスの発着地沢渡に到着。タクシ

ーミナルから宿泊先の公益社団法人日本山岳会山岳研究所（以下、山研という。）に向かう。途中の河童橋から雲間に見え隠れする焼岳を仰ぎ見、記念写真を撮る。河童橋から梓川の右岸を上流部に向かって山研を目指す。道を間違えてしまい、30分程ロスして山研に到着する。管理人の下川さんにご挨拶し、荷を解く。

山研は自炊が原則。夕食は、カレーライスに舌鼓を打つ。食後は持参のお酒を傾けながら、明日の登山等について語り合うも、天気予報が儘ならない。

★7月23日（日）

5:30 起床。朝食を済ませ、玄関口に集合する。出掛けに、焼岳の天気予報が雨で、且つ、風速が10m以上であることを知る。気温も低い。トムラウシの遭難事故が頭を過る。焼岳登山は中止する旨、決断。参加者の同意を得る。

中止時の行動計画は、奥上高地自然探索路のウォーキングに決めていた。雨具に身を包み、梓川の左岸に伸びる探勝路を最上流部の横尾山荘に向かう。明神館、「氷壁」の舞台となった徳沢園を過ごし、3時間ほどで横尾山荘に辿り着く。ここは北アルプス登山の要所だ。奥穂高岳、槍ヶ岳、常念岳への登山ルートの起点だ。横尾大橋前で記念写真を撮り、来た道に戻る。途中、新村橋を渡り右岸へ。治山運搬路を引き返す。嘉門次小屋で、お握りの昼食を摂る。おかずは嘉門次小屋名物のイワナの塩焼き。食

後、ウェストンからの贈り物のピッケルを目にして、山研へと帰る。2日目の夕食はソーメン。これがまた美味。

★7月24日（月）

山に登らずに帰仙するのも癪だ。上高地

## ☆第4回親子登山教室（戸神山）

### （公益事業山行）

- ・ 実施日：平成29年8月6日（日）
- ・ 山 域：仙台市太白区、戸神山（504m）
- ・ コース：仙台市広瀬文化センター（集合）→戸神山登山口→表・裏登山道分岐点→裏コース→女戸神山山頂→鞍部→男戸神山山頂→表コース→表・裏登山道分岐点→戸神山登山口→仙台市広瀬文化センター（解散）
- ・ 参加者：（会員）富塚和衛、佐藤昭次郎、草野洋一、三宅 泰、富塚真味子、遠藤銀朗（応募参加者）6 家族（保護者8名、小学生13名）  
(計27名)
- ・ 報告者：遠藤銀朗

平成29年8月6日に、仙台市教育委員会の後援と6組の家族（親子）の参加を得て第4回親子登山教室を開催した。公的後援を受けたことと、それを有効に活用して市内の幾つかの小学校に参加を働きかけたことで、今回の支部公益事業としての親子登山教室は多くの参加者を得ることができた。

実施当日は、8:30の集合時点では小雨模様の気象状況で好条件での開始とはいえなかったが、登山開始頃から天候が回復しはじめ、山頂に到着した時点では天空に晴れ間が見られた。この天候の回復により、男戸神山山頂から仙台市街や蔵王連邦を一望できるなど、結果的には天候に恵まれた親子登山教室となった。

登山開始に先立ち登山口から少し入った

の新安房トンネルで交通事故発生のため、3時間程足止めを食らうも、時々しか視界のない霧ヶ峰高原に立寄り、仙台所縁のお土産屋さんで拘りのコーヒーを戴き、帰路に付く。来年はリベンジの声も。

広場を利用して、親子登山教室として2つの親子向け授業（授業テーマ「安全に山に登るために」（草野会員担当）および「熊さんに会わないために、もし熊さんに会ったなら」（遠藤担当））を実施した。

その後、9:45に登山を開始し、裏コースを進み11:15に女戸神山山頂に到着した。ここで休憩の後、さらに女戸神山・男戸神山の鞍部を経て11:45に目的地である男戸神山山頂に登頂した。男戸神山山頂にて昼食休憩をとるとともに、3つ目となる親子向け授業（授業テーマ「戸神山ってどんな山？」（遠藤担当））を行った。

参加者全員で記念撮影をした後に、12:25に下山を開始。前述の鞍部から表コースを下山し、13:00に戸神山表コース・裏コース分岐点到着した。この分岐点で休憩時間をとるとともに、分岐点広場にて子供たちの急坂ロープ下りの体験トレーニング教室を開催した。このロープ下り体験は、参加した子供達にとって身体の安全を確保しながら急坂を下る知識と技術を実践的に学ぶよい機会になったと思われる。

13:45に登山口まで下山し、仙台市広瀬文化センターに戻り解散式を行い、14:10に第4回親子登山教室の全日程を終了した。

子供たちを対象とする登山教室は、地域登山界とさらにはわが国の登山界の後継者の育成だけではなく、将来の登山文化の発展とその恵沢の増進という重要な公益をもたらすと考えられる。今回の登山教室で子供達が山に親しんでいる姿を見て、次世代を担う子供達のために楽しさと教育的要素を大切にしたい登山教室を開催することは、日本山岳会宮城支部の事業活動として大きな意義があることを実感することができた。

☆「山の日」記念 宮城支部・山  
形支部合同山行（南蔵王縦走）  
（公益事業山行）

- ・実施日：平成 29 年 8 月 11 日～12 日
- ・山 域：蔵王町遠刈田
- ・参加者：（宮城支部会員）富塚和衛、遠藤銀朗、佐藤昭次郎、草野洋一、高橋功、千田早苗、千葉正道、鳥田笑美、永浜洋光、松田照夫、三宅泰、横山哲（山形支部会員）野堀嘉裕、武田幹男、佐藤一広、曾田茂雄、粕谷俊矩、木村喜代志、鈴木理夫、田邊信行（本部会員）平井 喜久枝（宮城支部支部友）津久井宏（一般参加）後藤達雄、鳥田伊志、村上健、吉田照夫  
(計 26 名)
- ・報告者：佐藤昭次郎

この事業は「山の日制定」を睨んだ事業として、また将来を見据えた行事として育てたいとの思惑で取り組んで第 3 回となる。祝日としての今後「山の日」を一般の方にアピールするためにはどのような方法がよいかを暗中模索しながら、初回は大自然が残り人口が減りつつある地域（東北には多い）の活性化と山岳会支部活動の活性化を融合できるものはないだろうかと思案した。その結果として、山形県最上町が協力可能との感触を得て、山形支部との合同（交流）事業としてスタートした。しかし、思惑通りには事が進まず反省点を多く残した。

第 2 回は山形支部にご担当いただいて摩耶山山行を行ったが、主旨の一般者向け山行は残念ながら実現できなかった。今年度は、当支部としてはこの合同山行を当初の事業計画に盛り込まなかった。しかし、山形支部からの声掛けがあり、今回は宮城支部が担当して取り組むことになった。

両支部が合意した基本案に基づいて計画

することとなり、日時は 2017 年 8 月 11、12 日、宮城として大枠合意。これまでの反省から公募により参加者を募る、「山の日」記念事業として記念講演などを盛り込む、そして記念登山などは支部間の連絡担当を設けて協議しつつ計画を進めることにした。

講演会および懇親会の会場を遠刈田温泉（さんさ亭）とし、11 日 13 時受付を開始。14 時から 16 時まで山の日記念講演会を開催した。先ず遠刈田の地元の歴史研究者である遠藤裕一氏より、「蔵王古道」と題し講演をしていただき、蔵王エコーラインの観光道路が出来前の蔵王山と人々の関わりやその登山ルートと山岳信仰などの山岳文化に関わる興味深いお話をいただいた。次に、現山形支部長の野堀嘉裕氏から蔵王の現在の自然についての講演をいただいた。蔵王の樹氷が何年か後に消えるというショッキングなお話であったが、地球の気候変動と山岳環境の変遷について深く考えさせられる講演であった。

また、時間を割いていただいて、登山医学会会員でもある当支部千葉正道会員から、登山と必要飲料水についての話をいただいた。各講演とも「山の日」ならではの興味深いものであった。その後、入浴後懇親会で盛り上がったが、翌日の記念山行予定を再確認する頃には豪雨状態であった。ホテルのフロントにて翌日の天気予報を確認したところ 100%の降雨確率とのことであったため、せっかく事前に下見山行をして事に備えたものの、翌日 12 日予定の山行は中止することを決断し、チェックアウトまでの時間を全体懇談会とすることを周知した。

翌 12 日の朝食後、1 部屋に集合し、佐藤（昭）の進行で、山の日的事、各支部の悩み、参加の感想、今後の予定、山岳会への要望、など普段の山行では出ない話題について懇談した。これらを総合すると、結果的には今後の各支部としての活動方針が見えてくるような山の日記念行事になった。

一般参加者から、この記念事業を通して、単に山に登るだけではなく、講演会・懇親

会・懇談会において多方面の話を聞くことができ、このような登山企画に参加できた

ことは大変よかったとの総括の感想が出て、胸をなでおろした。

## ☆沢登り山行（禿岳山域「火の沢」遡行）（共益事業山行）

- ・ 実施日：平成 29 年 8 月 27 日
- ・ 山域：禿岳山域 大崎市江合川支流「火ノ沢」遡行
- ・ 参加会員：佐藤昭次郎、太田正、中條俊一、山田ふき子  
(計 4 名)
- ・ 報告者：佐藤昭次郎

### ＜前書き＞

今回のこの計画は岩手県内陸地震(2008)後に地形が大きく変化し、山体の崩壊や滝の埋没などで登山コースが閉鎖や変更を余儀なくされてきた、岩手県磐井川支流の沢登りを当初計画した。特に、震災前は東北の名渓であった産女沢が気になる場所であり、当初は調査を含め産女沢遡上を計画した。しかし宮城では記録的な連続降雨日数になるなど、この夏の山行計画は常に天候を覗いながら行うこととなった。今回の沢行も流量が直接影響するので、これまでの降水量を勘案して、震災で崩壊した地域の沢は危険が残ると判断し、実施日の数日前に山域を変えて禿岳山域の火ノ沢を遡上することを提案し、参加申し込み会員と計画の変更を協議のうえ決行した。

## ☆ 初秋山行（仙台神室岳） (共益事業山行)

- ・ 実施日：9 月 10 日（日）
- ・ 山 域：仙台神室岳（1,356m）
- ・ コース：笹谷峠大駐車場→ハマグリ山→

### ＜沢登り山行報告本文＞

山行当日は幸い晴天に恵まれ車に乗り合わせて入渓。現地での新しいコース案内に沿って萱野原を移動。しかし火ノ沢堰堤への道が見つからず、(藪)萱漕ぎ。手入れがされていないからかな?と思いながら、かすかな廃道を 20 分ほど・いや、この道ではないと、一旦古川高の小屋まで戻った。元からの道を辿るが車は入れず、装備を身に着け堰堤に向かう。日差しが強く蒸され早く流水に浸りたい。入渓が 10 時となった。

先程までの萱場の行軍でもう疲労感が漂うが、沢の流水に足を入れると身が引き締まる。雨の毎日で流量は多め。最初の 4 m 次の 5 m と滝が続く。滝と言えらかどうかの 3 m の小滝を越えたところで昼食。

もう既に無理に源頭部を詰める時間はすぎたが、これからが核心部の滝郡である。5 m ほどの落差のシャワーを浴びるが気持ちが良い。続いて 8 m と 6 m が連続、ロープを固定し後続を待つ、この時会員の溪流靴の靴底が剥がれてしまい、戦意喪失。原因は経年劣化による底部剥離と思われる。

外観では全く問題なさそうに見えるが、命を支える道具類は定期的な更新が必要とつくづく感じた。そんな中で現在長野県の登山教室で研修中の会員は、未だ数回という沢登り経歴にもかかわらず、ロープを扱う姿はさすがと言える研修成果であった。

トンガリ山→山形神室岳→ダンゴ平→  
仙台神室岳→ダンゴ平→仙人大滝分岐  
→仙人大滝入口登山口

- ・ 参加者：(会員) 遠藤銀朗、三宅泰、川名久子、冨塚真味子、冨塚和衛、(準会員) 山田ふきこ、(支部友) 蔭山美緒子、針生紀子、赤間敏子、村上敏郎、白田昭一  
(計 11 名)

・報告者：富塚和衛

今年の初秋山行は、二口山塊の南部に位置し、山形神室岳と対峙して聳え怪峰と呼ばれる独特の山容を持つ仙台神室岳。

7:30 仙台市役所前に 8 名が集合、3 台の自家用車に分乗し笹谷峠の大駐車場に向かう。他 3 名は直接大駐車場へ。

初秋山行参加者 11 名が顔をそろえた処で、登山開始。笹谷峠の北側斜面をジグザグに登って行く。初秋の風が爽やかだ。今日は絶好の登山日和。足も軽やかに高度を稼ぐ。斜面を登り切り開けた場所で一息入れる。ここは展望が良く、目の前には梅雨払い山行で登った雁戸山が、東には山並みに頭を突き出す太白山が見える。次に目指すは、ユニークな標識があるハマグリ山(1,146m)。続いて、山形・宮城の県境に伸びる稜線を辿り、トンガリ山(1,241m)へ。ここで休憩。吹き抜けるそよ風が心地よい。ここから一旦下り、緩やかに登り返して山形神室岳(1,344m)を目指す。山頂には 10 人程の先客がいた。ここまで、約 2 時間の道程だ。10 分程の休憩を取る。

仙台神室岳へは此処から一旦ダンゴ平まで下り、そこからかなりの急坂を約 150m 登る。最後の踏ん張りどころだ。山形神室岳を出発し下り坂に入ると、この道がグジャグジャの道。予想外に時間を要した。泥道で足を使い、更にその先に急坂が待つ仙台神室岳は結構ハードな山だ。ただ、途中の景色は見事で、「眠れる山の女神」の異名を持つ仙台神室と周辺の山型が素晴らしい。

神室岳山頂到着は 12:20。登りに要した時間は約 3 時間半だった。狭い山頂だが、展望抜群の山並みを見ながら昼食を摂る。

山頂にお別れを告げたのは、13:00 頃。帰りはダンゴ平からコースを変更し仙人沢へと下ることに。まずは枯沢を下り左側の稜線へと取り付く。暫くして沢に降り、幾つかの沢を右に左にと渡る。途中、食用のきのこを発見。某さんが採取する。最後の難所、岩壁を下り切ると、後は、仙人沢登山口まで色づき始めた広葉樹林帯の下り道。登山口がある R286 号線に出たのは、16:00 頃。結構時間を要する下り道だった。初秋山行は、往復 7 時間ほどの行程で、予想外に骨の折れる山旅だった。

## 山行以外の宮城支部行事開催報告

### ☆宮城支部納涼ビアパーティー

報告者：木皿 謙

今年も恒例のビアパーティーが、例年通り 7 月 30 日(日)午後 6 時から仙台駅の近くホテル JAL シティ仙台で賑やかに開かれました。昨年は、仙台カゴの平澤亀一郎名誉会員のレリーフを訪ねて台湾からのお客様を迎え、総勢 25 名という近来稀な多くの参加者を得てにぎわいましたが、今回は例年通り 15 名の参加をいただきました。

今年のビアパーティーでは千葉正道会員の山岳医療に関するレクチュアを予定しておりましたが、直近になって千葉会員の日

程が忙しくなり、高橋二義会員が代役を引き受けてくださることになりました。余計なことですが、千葉ドクターの代役とは思えぬ堂々とした高橋会員の登山事故応急処置に関する講話の講義ぶりはなかなか見事なものでした。我々が山歩きをしている時誰もが遭遇するであろう事柄を、こと細かに話していただきました。非常時の際の心掛けとしても大切なことですが、そうならないように心がけるという意味からも大切な講義だったと思います。

レクチュアのあとは団欒のひと時をそれぞれが心行くまで楽しんで、今年のビアパーティーを無事終了することができました。皆様ありがとうございました。

## 宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

### ☆日本山岳会自然保護全国集会

報告者：自然保護・科学委員長 柴崎 徹

本年の日本山岳会自然保護全国集会は、7月9日、10日の両日にわたり岐阜市において行われた。テーマは「外来種に怯える山の植

物たち」。全国各支部の活動状況の報告のあと、「伊吹山の外来植物」の基調講演があり、続いて高山帯、亜高山帯、山地帯の3分科会に分かれて、山の現状と対策が討議され、総括が行われた。翌日は伊吹山で貴重種及び外来種などの自然観察会を行い、今年も実りある山岳自然保護のための全国集会になった。

## 日本山岳会宮城支部の平成29年10月～平成30年1月の行事予定

- 10月8日 (公益事業山行) 第5回親子登山教室 (対象山域：加美町、薬菜山)
- 10月10日 定例役員会
- 11月5日 (公益事業山行) 第5回登山教室 (対象山域：未定)
- 11月16日 定例役員会
- 12月10日 (共益事業山行) 初冬山行 (対象山域：白沢五山)
- 12月13日 定例役員会
- 12月17日 支部晩餐会 (仙台市内)
- 1月1日 (共益事業山行) 元旦登山 (対象山域：仙台市、泉ヶ岳)
- 1月17日 定例役員会
- 1月21日 (共益事業山行) 冬山山行 (対象山域：未定)

### 編集後記

今年度より編集と発行方法を変更して以来、2号目となる宮城山岳通信第10号を日本山岳会宮城支部の会員と会友の皆様にお届けいたします。この号の発行によって、年4回定期的に発行するニュースレターとしての様式と役割をほぼ完成に近づけることができたのではなかろうかと思っております。これからも、日本山岳会宮城支部の全体的な動きと四季ごとの活動を、可能な限り詳しく皆さんにお伝えすることができる支部報となるように努力したいと考えております。引き続き、宮城山岳通信の発行に対する皆様のご協力とご支援を宜しくお願いいたします。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

### 宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2017年10月6日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、中條俊一、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中9-12 Tel・Fax 022-255-7398